

読売テレビ新社屋

Yomiuri Telecasting Corporation New Office

No. 13-063-2020作成

新築

事務所／その他

発注者	読売テレビ放送株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社 竹中工務店 Takenaka Corporation	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 竹中工務店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

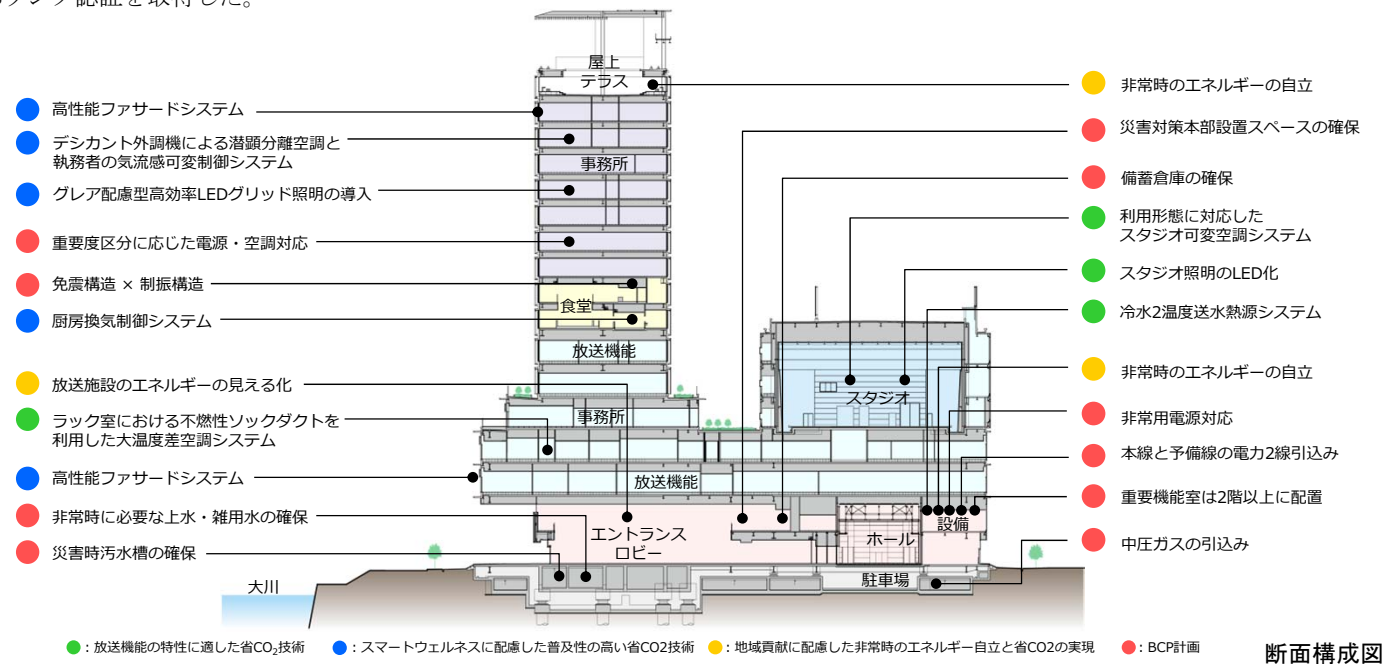
関西から世界へ情報を発信する

にぎわい・非常時のエネルギー自立を実現する放送施設

大阪京橋のOBP地区に建つテレビ局の新社屋計画。街に開かれたテレビ局を目指し、1・2階には来街者が自由に立ち寄れる屋外ピロティと円形ロビーを設けた。セキュリティが求められる放送局機能は3階以上に配置し、低層部では街区と川がもつ2軸に合わせて最大平面を確保、高層部を街区から45度振れた軸上に配して大阪城に正対させた。低層部から高層部へ軸の切り替わる場所に屋上庭園を設け、大阪城公園の広大な緑地とつなげた。内部は、外周に必要諸室を配置して中央を吹抜けとし、ガラス天井を介してエントランスロビーにつなげることで、コミュニケーションを誘発する新社屋の幹となることを意図した。構造計画は、免震構造に中間層集中制振を組込んだ「プレミアムセイフティ架構」を採用し、最高レベルの耐震安全性を確保した。環境面では、放送機能の特性に適した省CO2技術の導入、事務所のスマートウェルネスに配慮した普及性の高い省CO2技術の導入を図るとともに、中圧ガス利用のコージェネレーション等によって、非常時のエネルギー自立と地域貢献を図り、放送局として「国土交通省サステナブル建築物等先導事業（省CO2型）」に初めて採択され、CASBEE Sランク認証を取得した。



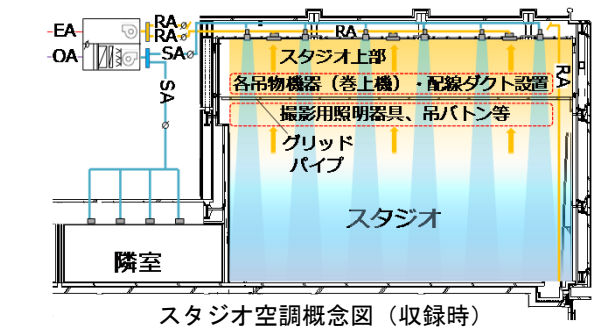
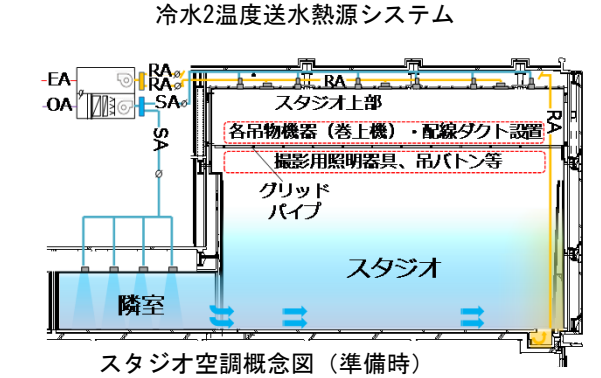
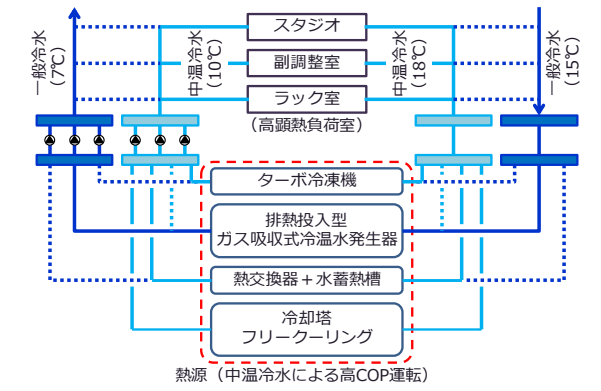
南面外観写真（手前が第二寝屋川）



建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	BP1	Sランク	
竣工年	BEI (通常の計算法)	BEE=4.3	
敷地面積	LCCO2削減	2014年度版	
延床面積	一次エネルギー実績値	第三者認証	
構造	(旧社屋削減率)		
階数	2019年9月~2020年8月		

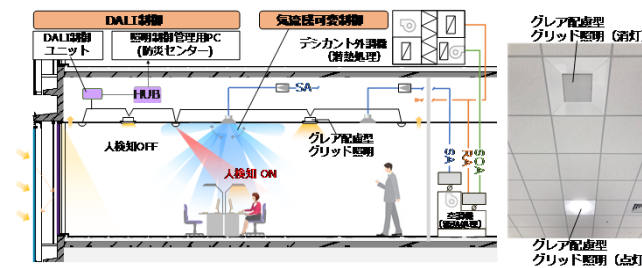
放送機能の特性に適した省CO2技術

- 冷水2温度送水熱源システム 熱負荷用途に合わせて、冷水の2温度送水が可能なシステムを構築することで熱源機器単体のCOP、フリークーリング適用期間の延長や蓄熱効率向上により、熱源効率向上を図っている。
- 利用形態に対応したスタジオ可変空調システム スタジオの準備時は、置換空調による居住域空調とし、収録時は、スタジオの高発熱負荷処理空調により、従来のスタジオ空調と比べて効率の高い空調方式を実現している。
- ラック室における不燃性ソックダクトを利用した大温度差空調システム 不燃性ソックダクトをラック室空調に全面的に採用し、冷水大温度差と変風量制御による搬送動力を低減に加え、簡易キャッピングを併用により空調効率を高める計画としている。
- スタジオ照明のLED化 ベース照明・ホリズント照明・演出用照明のLED化の推進により、照明エネルギーの省CO2性能を向上を図っている。



スマートウェルネスに配慮した建築・設備デザイン

- 高性能ファサードシステム 階高の高い低層は、上部に外部簾+ペアガラス、下部に高性能Low-Eガラス+電動ブラインドとし、高層は、単層ダブルスキン（普通ガラス+電動ブラインド+高性能Low-Eガラス）とした。外部簾はアルミダイキャストとし、パラメトリックデザインにより、意匠性・省資源・遮蔽効果の最適化を図っている。
- デシカント外調機による潜熱分離空調と執務者の気流感可変制御システム デシカント外調機による潜熱処理と空調機による顕熱処理に加え、気流感可変制御を適用することで、吹出口からの風量・温度を変化させることで執務者に気流感を与え、快適性を高める計画としている。
- グレア配慮型高効率LEDグリッド照明の導入 執務室には、グレア配慮型高効率LEDグリッド照明を開発導入した。点灯面にはグレアを抑制するアクリパネルを採用し、グリッド照明としては、高効率となる140lm/Wを実現している。
- 厨房換気制御システム 厨房機器の利用状態に応じた厨房換気量制御システムと置換空調システムを組み合わせることで、厨房内の温熱環境と空調効率の向上を図っている。



主要な採用技術（CASBEE準拠）

- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制（ダブルスキン・庇形状PC・パラメトリックデザインを用いた外部簾・自動制御ブラインド）
- LR1.3. 設備システムの高効率化（冷水2温度送水熱源システム・潜熱分離空調・CGS・照明センシング技術）
- LR1.4. 効率的運用（BEMSによるエネルギーの見える化）
- LR2.1. 水資源保護（節水型器具の採用・雨水利用）